

睡眠時無呼吸症候群 について

<睡眠時無呼吸症候群とは>

「睡眠時」に「無呼吸」状態になる病気です。英語ではSleep Apnea Syndrome (SAS) と書きます。「無呼吸」とは10秒以上の呼吸停止と定義され、この無呼吸が1時間に5回以上または7時間の睡眠中に30回以上ある方は睡眠時無呼吸症候群と診断されます。有病率は人口の4%で、日本には200万人の方がこれに相当するといわれています。症状としては、いびき、日中の眠気、運転中や会議中など集中していなくてはならないのに眠くなる、起床時に頭が痛い、熟睡感がない、インポテンツ、夜に何回もトイレに起きるなどがあり、徴候としては高血圧、肥満、不整脈、浮腫、糖尿病などがあげられます。



内科医長
やまもと ひろゆき
山本 司生

<生活習慣病との関連>

1時間当たりの無呼吸数が20回以上の重症の方は、無治療のまま放置すると9年後には心臓病、脳卒中、交通事故などの原因で10人に4人お亡くなりになったという報告もあります。また、正常な方と比較して、SAS患者さんは、高血圧は2倍、心疾患3倍、脳卒中は4倍、糖尿病は1.5倍発症する可能性があがるといわれています。

<検査>

睡眠時の呼吸状態を見るために、体の5箇所にセンサーをつけて検査を行います。決して痛みを伴うものではありませんので普段通り眠っていただけます。

<治療>

まずは生活習慣の改善が必要です。減量、飲酒の制限、精神安定剤の服用の制限、禁煙などが考えられます。治療法としては内科的治療、外科的治療、薬物療法などがあります。

当院ではこの睡眠時無呼吸症候群の検査を行っておりますので、詳しくは内科外来までお問い合わせください。



《もの忘れ相談プログラム MSP-1000》

アルツハイマー型痴呆を発見するのに最も重要な質問を用いた、簡単なスクリーニングテストプログラムです。テスト時間は約5分です。テストが終わると結果がプリントアウトされます。

もの忘れ外来について

1月26日(水)から毎週水曜日の午後に予約制で「もの忘れ外来」をはじめました。

痴呆の早期発見と進行予防、介護についての専門的アドバイス、介護・福祉サービスについての相談を中心に専門医師が対応しますのでお気軽にご相談ください。

また、アルツハイマー型痴呆の早期発見に役立つ「もの忘れ相談プログラム(鳥取大学医学部浦上克哉教授 開発・考案)」を導入しました。(左写真)

タッチパネルパソコンとの対話方式で簡単にもの忘れのテストができます。外来待合いに設置していますのでご利用ください。

【もの忘れ外来のお問い合わせ先】

西伯病院 もの忘れ外来
電話 0859-66-2211